



布を絞る

平成31年4月分

はじめに

いつもより早く桜が満開となり、慌ただしく種を育てています。皆様はお送りした種を蒔きましたでしょうか。寒い地方の方は、蒔く時期を心待ちにされていることと思います。どのくらいの方が蒔かれたか気になりつつ、第2回の原稿を書いています。霜が降りると、せっかく芽が出ても枯れてしまいますので、天候を見極めて蒔いてください。ビニールハウスや覆いなどを利用すると、早く植えることが出来ます。

暖かい地方の方は、順調に芽が出ましたか？今年の天候だと3週間くらいかかると思いますが、2週間位経っても芽が出ないときは、雀に食べられたり、寒さに当たった疑いもあります。よく観察してください。プランターで育てている方もできるだけ多く育ててください。

いつまで経っても芽が出なかったり、苗が大きくならない時は申し出てください。一年間の実習ができなくなりますので、お力になれるように致します。また、藍の量が不足している方は6月頃にお知らせください。こちらもご協力させていただきます。

何か質問や疑問がありましたら、質問用紙に書いてお送りください。去年のデータを見ますと、一度も質問用紙を使われなかった方が何人かおられました。私が忙しいだろうと、気を遣って下さった方もあったようですが、不明のまま過ごされるのは、私の望むところではありません。納得の行くまでお話し合いをしたいと思います。質問の他、私の予測しない色を出して、送ってくださった方もありました。こんなことを教えて欲しい、もっと詳しく書いて欲しい等のご要望も取り上げていきたいと思っております。

ではさっそく、よくあるご質問のひとつについて説明いたしましょう。

Q. 「実習に必要な量を作るにはどの位の広さの土地が必要なのか？」

A. 1 m四方の土地から生葉で300 g、乾燥葉で40 g（ただし、順調に育った場合）収穫できますので、これを2回収穫することを前提に計算すると、5 m四方の土地があれば、全実習のうちすくも以外の体験をすることができます。

すくもを造るには最低でも3 kgの乾燥葉が入用ですので、10 m四方くらいの広さが必要となります。一応、種はその広さの量をお送りしていますが、不足の方はお早めにお問い合わせください。

なかには、プランターでないと育てられない方もおられると思いますので、プランターに間を詰めて植えても（ベタ植え）良いと思います。13ヶくらい植えられるとかなり収穫することができます。少ない量の葉で染められる方法も紹介していきますので、お好きな技法を選んで体験してみてください。

絞りの技法 5 種類

今回は、藍が育って染められるようになるまでの1ヶ月間を利用して、染めの技法を解説します。まずは布に絞りを施す技法を解説します。ここでは、私独自の技法も取り上げることにしました。見本や写真を添付しますので、参考にご覧ください。

藍染めを布以外に染めたい方もあると思います。今後、講座の中で糸や和紙などの染めも取り上げたいと思っております。絞りが不要の方もいるかと思いますが、ご了承ください。

A. かご染め絞り

(写真①、②、別紙写真、A-染め見本)

同じかごを2つ用意します。一つ目のかごに乾いたままの布をひねったり、しわを寄せながら詰め込みます。もう一つのかごを、上から押さえに置きます。紐で縛って固定します。写真①のようなあられ炒り用の網かごが大変便利です。布を濡らしてからしわを寄せると、にじむ感じでまた違った模様になります。

写真①・②は、【20分^{あいがめ}藍甕に浸ける→20分上げて酸化する】を3回繰り返して染めています。藍の状態によっては、4～5回繰り返して染めます。この他、ハンカチやスカーフ等小さいものは、茶漉しなどを使用します。手で握り染めるだけ

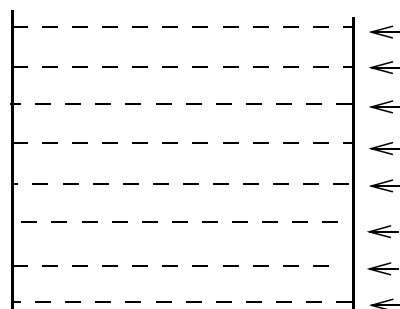
でもこの様な模様をつけることができます。

もう一つ、新しく考え出した方法をご紹介します。別紙「かご染め絞り作品例」の写真（上）のような鍋敷き（100円均一で購入できます）の穴を利用します。粗い目のかごでもかまいません。写真（下）はこの方法でタオルを染めたものです。タオルの表（糸が出ているほうが裏）を下向きにして鍋敷きの上に載せます。その上から指でタオルを鍋敷きの穴に押し込むようにすると、写真（上）のような状態になります。その向きのまま（写真とは逆向き）藍甕に浸けて染めます。

B. 乱れ運針絞り

（写真③、B-染め見本）

あらめで厚手の布に横線を引いておきます。写真③のように両側に当て布をして、綿糸8番を使い2本取りで縫います。線の上を10～15mmの針幅で自由に運針します。上の段の針目とそろわないように縫った方が面白い模様になります。いわゆる杓目^{もくめ}絞りと同じ技法ですが、細かくしないで大きく表現しましょう。写真③の作品は、染めては少しほどき、染めては少しほどきを繰り返して濃淡をつけたものです。水洗いして脱水し、ほどいてからまたよく水洗いします。



C. 筒芯巻き絞り（竜巻絞り）

（写真④、⑤）

筒の芯には、下水パイプや太いホース等を使用します。

- ①筒のまわりに布を巻き付けます。
- ②布の巾や丈を考えながら糸を巻き付けます。（写真④）

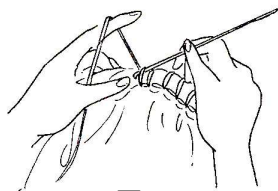
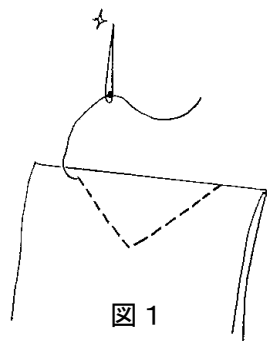
〔 麻糸等の太いものを使うと、太い模様がでてきます。〕
〔 木綿糸等の細いものを使うと、細い線がでます。〕

布をまっすぐに留めるのではなく、ゆとりを取りながら留めると、花のような模様ができます。(写真⑤)

このとき染め上がった糸も、織ったり、編み物にしたりして使ってください。

D.かぎ針絞り

(写真⑥、D-かぎ針絞り見本2種)



なるべく粗い布を使用します。この技法は、従来の軍隊絞りから発想したものです。かぎ針は、先がとがって布に入りやすいものを選びます。レース針0号～2号くらいが良いでしょう。図1のように、線を引いたものを予めしつけしておき、図2のように細編みでしつけの下を編んでいきます。糸は、ウールや木綿の中細糸を使います。糸の種類によって模様の出方が違います。レーヨン布の薄い生地を、何重かに折りたたんで使っても面白い模様が出せます。見本を同封していますので参考にしてください。

この技法の利点は、ほどく時に糸の先を引っ張れば、あっという間に絞りがほどけることです。また、自由な線が表現できます。【注：ほどく時は編み終わり(糸が長く出ている方)から一目引きぬいてほどきましょう。】

糸をなるべく切らないで、くさりで次の場所迄移ると、染め糸が編み物や織物に使えます。

E. ミシン絞り

(写真⑦、⑧)

10枚のガーゼ布を重ね、その上と下にビニール(100円均一で購入できるすべらないレインコートの生地を切って使います)を図案部分に置きます。その上に図案を描いた布(ハンカチくらいのうすい生地)を置いてこれらを仮止めします。図案の白くしたい部分はミシンで縫います。手縫いである場合、半返しで縫います。白くする部分が縫えたら、青くする部分のビニールと図案の布をハサミで切って、染めます。染めた後、ミシンの糸をニッパーで切ります。

重ねる布の厚さは、布地によってミシンで縫える厚さに加減してください。

次に、1枚の布を使った方法を紹介します(写真⑧)。

うすい布地(バンブーヘンプ)やガーゼを使ってミシン絞りをほどこしました。

① 90 cm巾の布を、屏風だたみに四つ折りにします。

※好みにたたむと違う模様ができます。

②さらに三角形になるように折りたたみます。

【注：ミシンで縫える程度の厚さにたたむことがコツです。】

③そこに自由に線を描き、縫います。

布地の中まで藍色に染まりますので、白い部分が欲しければ何度も何度もミシン目を重ねてください。そうした部分と、粗く縫った部分とで、色の濃淡を表現できます。



【同封したもの】

- A かご染め絞り見本
 - B 乱れ運針絞り見本
 - C 筒芯巻き絞り見本
 - D かぎ針絞り見本
 - E ミシン絞り見本
 - 写真資料（A4用紙2枚：写真①～⑧）
 - かご染め絞り写真資料
- } ビニール袋に入っています